



ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン 2026

大和証券グループ Presents

44th
Nagoya
Classic Festival
2026

リッカルド・ムーティ 指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

Wiener Philharmoniker Week in Japan 2026

Daiwa Securities Group Presents

RICCARDO MUTI Conducts WIENER PHILHARMONIKER

も と め あ う 理 想、
満 ち 足 り た 感 動 の 週 間

© ZaniCasadio Courtesy of
www.riccardomutimusic.com

© Wiener Philharmoniker / Dieter Nagl

2026年11月4日(水) 18:45開演(18:00開場)
Wednesday, November 4 at 18:45

愛知県芸術劇場コンサートホール
Aichi Prefectural Art Theater, Concert Hall

ベートーヴェン：交響曲第2番 ニ長調 作品36
Ludwig van Beethoven: Symphony No. 2 in D Major, Op. 36

ブラームス：交響曲第2番 ニ長調 作品73
Johannes Brahms: Symphony No. 2 in D Major, Op. 73

■ チケット料金 (全席指定・税込)

S席 ¥49,000 A席 ¥44,000 B席 ¥39,000
C席 ¥33,000 D席 ¥27,000 ユース席 (抽選) ¥5,000

※ユース席は、一般発売2/19(木)11:00よりChuチケにてエントリー開始。
中学生から26歳まで(公演日時点)が対象。入場時に年齢を証明できるものをご提示ください。
※未就学児入場不可 ※車いすスペースをご希望の場合は中京テレビクリエイションへお問い合わせください。
※内容が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。最新情報はホームページでお知らせします。

■ チケット取扱い

Chuチケ <https://cte.jp/44cf/> TEL:052-308-8282 (平日11:00~17:00)
チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード [315-131]
イープラス <https://eplus.jp/>
愛知芸術文化センタープレイガイド TEL:052-972-0430



■ お問い合わせ

中京テレビクリエイション TEL:052-588-4477 (平日11:00~17:00/土・日・祝休業)

リッカルド・ムーティ指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

来日70周年 最高峰にして唯一無二の響きが紡がれる

1842年の創立以来、クラシック音楽の歴史と共に歩んできたウィーン・フィル。その“黄金の響き”が1956年に初めて日本の聴衆の心をつかんで以来、時代を彩った指揮者と共に海外オーケストラとしては異例ともいえる40回の日本ツアーを開催し、今年来日70周年を迎えます。日本での活動はコンサートだけに留まらず、次世代に向けたプログラムや被災地への訪問など幅広く展開、日本のファンと類をみない親愛と友情を育んできました。

来日70周年を記念する今年タクトをとるのは、55年間にわたり共演を重ね、誰よりもウィーン・フィルを知る巨匠リッカルド・ムーティ。プログラムは、共に「ニ長調」という明るく輝かしい調性を持つ、二つの傑作交響曲が並びます。ウィーン・フィルとも深い関係にあるベートーヴェンの交響曲。ウィーン・フィルが初演を行ったブラームスの交響曲第2番(1877年)は、ウィーン・フィルが長く培ってきた歴史と、作曲家たちが愛した黄金の響きの真価を深く体感できる、必聴のプログラムといえるでしょう。

時代を超えて愛される名曲たちが、ウィーンの伝統と巨匠のタクトによって新たな命を吹き込まれる瞬間を、ぜひ会場でご体感ください。



© Julia Wesely

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

Wiener Philharmoniker

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ほど、西洋音楽の歴史と伝統に深く関わっているオーケストラはないだろう。その魅力は、世代を超えて慎重に継承されてきた均質な音楽スタイルの意識的な維持、および独特な歴史と組織形態に基づいている。今日でも変わらぬ「ウィーン・フィルの理念」の支柱は、芸術的・組織的な意思決定の過程すべてをオーケストラのメンバー自身の手で委ねる民主的な組織であること、そしてウィーン国立歌劇場管弦楽団との密な共生である。日本や日本の聴衆との関係は非常に密接で、パンデミックの起こった2020年でさえ、大規模なセキュリティ対策とツアー期間中の検疫を実施した上で日本公演が行われた。

同楽団は、音楽の人道的なメッセージを聴衆の日常生活や意識の中に伝えることを使命としており、創設当初から、社会的責任を強く意識した活動を行ってきた。2018年にはオーケストラ・アカデミーを設立、国際的で厳格なオーディションによって選ばれたアカデミー生に、2年間の課程で最高水準の機会を提供している。日本では1956年の初来日以降40回のツアーを行い、2026年は来日70周年として41回目のツアーとなる。

指揮: リッカルド・ムーティ

Riccardo Muti, Conductor

ナポリ出身。1971年、カラヤンに招かれザルツブルク音楽祭にデビュー。ウィーン・フィルとは、このザルツブルク音楽祭で共演して以来55年間、とりわけ深い親交を結んでおり、92年にはウィーン・フィルの150周年記念コンサートを指揮した。ニューイヤー・コンサートには93年以降、2025年までに7回出演。24年5月7日には、ベートーヴェン:交響曲第9番の初演200周年記念演奏会を指揮した。若手育成にも力を注ぎ、04年には、イタリア各地の若手演奏家からなるルイージ・ケルビーニ・ユース・オーケストラを創設、さらに15年よりリッカルド・ムーティ・イタリア・オペラ・アカデミーを創設した。

1986~2005年、ミラノ・スカラ座音楽監督。10~23年はシカゴ交響楽団の音楽監督を務め、現在は終身名誉音楽監督。16年にはイタリアと日本の文化交流促進への貢献に対し、旭日重光章が贈られた。